

カンキツ「山見阪ネーブル」の生産性向上のための台木選定					
<p>[要約]カンキツ「山見阪ネーブル」に用いる6種類の台木を比較すると、1樹当たりの収量は「シングルシトルメロ」およびクレオパトラ台樹で多く、「シングルシトルメロ」台樹では果実重も大きくなる。果皮色、糖度、クエン酸含量などの果実品質は、台木間に顕著な違いが認められない。</p>					
担当部署	園芸研究所・果樹部・常緑果樹研究室			連絡先	092-922-4946
対象作目	果 樹	専門項目	栽 培	成果分類	品種選定

[ 背景・ねらい ]

カンキツに利用する台木の見直しが進む中で、これまでに各種の台木が温州ミカンや中晩生カンキツの生育、収量、果実品質に及ぼす影響について明らかにしてきた（平成8、9、10年度成果情報）。今回は本県の地域特産カンキツである「山見阪ネーブル」をシクワシャー、「シングルシトルメロ」、クレオパトラ、「トロイヤシトレンジ」、カラタチ系統の「USDA」および従来のカラタチ台木に接ぎ木して比較を行い、生産性向上および品質安定のための台木を選定する。

[ 成果の内容・特徴 ]

1. 6種類の台木間で比較すると、1樹当たりの収量は隔年結果により変動するものの、4カ年の累計では「シングルシトルメロ」およびクレオパトラ台樹が最も多く、次いでカラタチ系統や「トロイヤシトレンジ」台樹が多く、シクワシャー台樹は少ない。また、樹冠容積当たりの収量もシクワシャー台樹が他の台木に比べて著しく少ない（表1、一部データ略）。
2. 「シングルシトルメロ」およびクレオパトラ台樹は幹周、樹高、樹冠容積が大きく、シクワシャー、「トロイヤシトレンジ」および「USDA」台樹は生育が劣る（表1）。
3. 果実重は「シングルシトルメロ」台樹が大きく、シクワシャーおよび「トロイヤシトレンジ」台樹が小さい。シクワシャーおよび「トロイヤシトレンジ」台樹は糖度がやや高い傾向にあるが、果皮色、糖度、クエン酸含量などの果実品質は、台木間に顕著な違いが認められない（表2）。

[ 成果の活用面・留意点 ]

1. 「山見阪ネーブル」の台木を選定する際の参考資料として活用できる。

[ 具体的データ ]

表1 台木の異なる「山見阪ネーブル」の収量と樹の大きさ(平成9～12年)

台木名	1 樹当たり収量(kg/樹)					樹の大きさ		
	H 9	H10	H11	H12	累計	幹周(cm)	樹高(cm)	樹冠容積(m <sup>3</sup> )
シクワシャー	1.1c	1.7b	0.5a	0.5c	3.8b	7.8b	177c	1.82b
スイングルシトルメロ	5.5a	7.6a	2.1a	4.9ab	20.1a	12.7a	227ab	3.97a
クハトラ	4.8b	9.0a	2.1a	4.9a	20.8a	12.8a	240a	3.97a
トロヤシトルメロ	2.1bc	5.4ab	1.9a	1.9c	11.3ab	8.2b	193abc	2.29b
USDA	2.1bc	4.7ab	2.3a	2.8bc	11.9ab	7.5b	187bc	2.31b
カラタ	2.7bc	5.2ab	3.5a	5.1a	16.5ab	9.1b	200abc	2.55ab

- 注) 1.平成8年に6年生樹を無加温ハウス内の根域制限ベッドに定植  
 2.仕立て方は主幹形で、樹の大きさは平成13年1月に調査  
 3.Sceffeの多重検定により、異文字間には5%水準で有意差あり

表2 台木の異なる「山見阪ネーブル」の果実品質(平成9～12年)

台木名	果実重(g)	果皮色(チャート指数)	果肉歩合(%)	糖度(Brix)	クエン酸含量(g/100ml)	甘味比
シクワシャー	162b	8.7a	73.2a	12.4a	1.00a	14.1a
スイングルシトルメロ	242a	8.7a	72.8a	10.8a	0.96a	12.6a
クハトラ	214ab	9.0a	69.4a	10.6a	0.87a	13.4a
トロヤシトルメロ	179b	8.7a	72.3a	12.2a	1.03a	13.3a
USDA	196ab	9.1a	72.3a	11.2a	0.93a	13.5a
カラタ	214ab	9.0a	72.8a	11.2a	0.97a	12.8a

- 注) 1.数値はすべて平成9～12年の平均値で、収穫時期は12月中下旬  
 2.Sceffeの多重検定により、異文字間には5%水準で有意差あり

[ その他 ]

研究課題名：台木と果実品質の時期的変化

予算区分：経常

研究期間：平成12年度(平成10～12年)

研究担当者：矢羽田第二郎、松本和紀、堀江裕一郎